

1-2-4b科学

「科学」の第2弾は、脳死による臓器移植を例に「科学」を成り立たせている基本的な特徴を説明します。

まず、近代の世界観であるデカルト二元論から始めましょう。

②科学の基本的な特徴

i) 科学とは、、、

では、**デカルト二元論**を見てください。

人間は、理性をもつ／精神的な存在であって／だからこそ主体となりうる。

自然は、理性をもたない／ただの物質的な存在であって／客体にしかならない。

という図です。

乱暴にいえば、人間は、この世界のご主人様なので、奴隸である自然を好きに使っている、という世界観です。

でも、好きに使うためには、その使い方を知らなければなりません。

新しいスマホを買っても、その使い方がわからないと使えないですよね。

その使い方を明らかにするものこそ、科学というわけです。

その意味で、科学は〈人間が自然を支配する手段〉だといえます。

ところで、、、

ドナーカード、もっていますか？

正確には、臓器提供意思表示カードといいます。

臓器を提供するかどうか、特に脳死になった場合どうするかを意思表示するもので、今では、マイナンバーカードなどでも意思表示できます。

では、脳死って何でしょう。

実は、国によって規定が違うのですが、日本では、全脳の機能不全、つまり、脳全体が働かなくなって、人間としての意識が不可逆的に失われた状態、をいいます。

露骨にいようと、脳はダメになっているから人間として生きているとはいえないけど、身体は死んでいないから臓器は新鮮、という状態です。

ここに、現在の科学の特徴がよく出ています。

ii) 唯物論

まず、この世界はただの物質だと考えるのが「**唯物論**」です。

たとえば、木造の仏像。

その仏像を「仏様」だと思うのは私たちの心がそう思っているだけで、実際はただの木の人形にすぎません。

そりや、そうだ、と思った人。

そういう発想を唯物論といいます。

ここで注意してほしいのは、人間の精神が別にあることです。

精神の働きを「**意識**」といいます。

仏像はただの木だけど、それを「仏様」だと見なしているのは意識。

ということは、そう見なしている意識が仏像とは別にある。

それはどこでしょう。

今の科学では、それが「脳」だと考えられています。

ちょっと、デカルト二元論に戻ってみましょうか。

自然は、、、物質です。

精神は、、、その物質から切り離されていることがわかりますか。

脳自体は物質ですが、精神は、人間の脳に宿った特別なものだ、とされているわけです。

さて、「脳死」です。

脳の働きがすべて停止しているなら、そこにはもう意識はなく、人間として死んでいることになります。

残っているのは、ただの身体、ただの物質です。

そこから、動いている心臓を取り出したところで、殺人にはならない、というわけです。

iii) 要素還元主義

何かが起こるには、必ずその原因がある。

その原因を単純に一つのものに求めようとするところに「**要素還元主義**」の特徴があります。

たとえば、インフルエンザ。

その原因是、、、インフルエンザウイルス、といわれています。

が、実際には、ウイルスは原因の一つにすぎません。

体質、体調、免疫の状態によって、たとえウイルスに感染しても、発病しません。

いやいや、根本原因はやっぱりインフルエンザウイルスでしょ！

と思うあなた。

まさにインフルエンザウィルスという一つの要素に還元して、その病気を捉えていることに気づきましょう。

さまざまな要因が絡んで発病しているからこそ、インフルエンザの治療はウィルスをやっつけることだけではありません。

体全体の免疫を上げることも立派な治療法です。

この世界が原子からできている！

生物が遺伝子からできている！

地球温暖化は二酸化炭素のせいだ！

どこかに本当の自分がある！

全部、要素還元主義です。

iv) 機械論

唯物論と要素還元主義から「**機械論**」が導かれます。

たとえば、時計はどうして動くのでしょうか。

それは、針を動かすしくみがあるからでしょう。

現に、時計の中を見ると、小さな部品が組み合わさって、針を動かすようになっています。

では、猫はどうして動くのでしょうか。

それは、生きているから、、、と科学では考えません。

デカルト二元論に戻ると、そもそも、猫は、、、人間のはずはないですから、自然であって、だから物質です。

猫を殺すと、日本の刑法では何罪になるか、知っていますか。

窓ガラスを割るのと同じ罪、器物損壊罪です。

だから、猫が動くのは、時計と同じく、手足を動かすしくみがあるからであって、現に、猫の中を見ると、筋肉や骨が組み合わさって、手足を動かすようになっています。

このように、この世界はしくみからできている、と考えるのが機械論です。

この世界はただの物質であると考える唯物論と、単純な因果関係から成り立っていると考える要素還元主義を前提にしていることに気づいてください。

さてさて、「脳死」。

脳死になると人体はただの物質だから、そこから使える部品を取り出して、他の人に移植する。

まさに機械論的な人間観、人体観に基づいて行われていることがわかります。

ちなみに、脳死になっても、人体はもちろん生きているので、臓器を取り出す際に脳死体は痛みを感じます。

だから、暴れ出さないように、モルヒネを打ったり麻酔をかけたりして臓器を取り出すことは知っていますか。

、、、少し怖い話をしました。

科学は、この機械論に基づいて、自然のしくみを明らかにしようとしているのです。

つまり、科学とは、、、

〈人間が自然を支配するために、自然のしくみを明らかにしようとする嘗為〉であるといえます。